

判断基準【具体例】5領域11項目&乳幼児・就学児サポート調査

	一部介助	全介助
① 食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に特別な配慮をする必要がある。 →軟食、きざみ、ミキサー食、流動食、過度な食物アレルギー等 ・一度に口に詰め込まないよう等、安全面での配慮が必要。 ・食べるのに何でも手づかみ、また道具を使って食べることにサポートを行っている場合。 ・著しい偏食がある。(水が飲めない、食べられるものが極端に少ない等) ・感覚過敏(食形態(温度、食感)のこだわり、食器のこだわり等)により配慮が必要。 	
② 排せつ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレトレーニングのために、排泄時間の記録、定時での排泄チェックを行っている。 ・大人の促しがなければ、自発的にトイレに行くことが難しく、配慮が必要な場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頻尿で何回もトイレに行きたがる。 ・尿意等を自分から伝えられない。 ・排泄の失敗などが多く、都度対応が必要。(頻度は1週間に1回以上。オムツは使用せずに対応している場合も含む) ・排泄の度ごとに職員による清拭が必要となる。
③ 入浴	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱や洗身は自立しているが、1人で入浴させることはできない。(見守りや声かけを含む) ・感覚過敏があり、洗髪や洗身に拒否を示すため、対応が必要。 ・石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり、配慮が必要。 ・入浴する際に常に動くため見守り等の配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴する際に首の座りが悪かったり、体幹が弱く配慮が必要。 ・常時抱っこで入浴の必要がある。 ・シャワーを怖がる、浴槽を嫌がる等、入浴への恐怖感がある。 ・洗髪や洗顔、洗身に強い拒否を示し泣くため、対応が必要。
④ 移動	<ul style="list-style-type: none"> ・階段や未舗装道路(砂利道等)等の条件によって介助が必要になることがある。 ・歩行速度が他児と異なるため、個別の対応が必要。 ・道順や手段にこだわりがある。 ・感覚過敏等があり、外履きや靴下等に配慮が必要。 ・公共交通機関ではパニックになり、利用できない。 ・移動が安定せず途中で立ち止まったり、座り込んだり、寝転んだりするため対応が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時手をつなぐ状態や、常時抱っこ等で移動が必要な状態。 ・抱っこをして移動するが、首の座りや体幹が弱く抱っこに配慮が必要。 ・常時バギーや車イス、お散歩カートなど移動用具が必要。 ・道路への飛び出しがあり、信号を理解できない、障害物の回避が出来ないなどの理由で見守りが必要。 ・装具などを装着しているため、移動する際に配慮が必要。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツール(絵カード、ICTの活用等)を用いるとコミュニケーションができる。 ・手話、点字等を用いている。 ・特定の人しか理解できないサインで意思を表現する。 ・特定の人としかコミュニケーションがとれない。 ・慣れない場所(人)では、表情が硬く話すことが難しい。 ・吃音がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話のやりとりではなく、一方的に話しかけたり、テレビのコマーシャルの台詞などを独り言のように話したりするが、自分の意思の伝達ではない。 ・相手からの話しかけにそのままオウム返しで返答している。 ・行動でのみ自分の意思を伝えられる。(例:冷蔵庫の前に行く、他者の手を引いておもちゃを取らせる等) ・日常生活上パターン化された内容のみ、自分の意思を伝える場合。(例:ご飯と言う、おもちゃのみ指さしする等)
説明の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明を聞いてうなずいたり、返事をするが、その後の行動が伴わないことがある。 ・1つのことはできるが、同時に2つ以上のことを指示されると行動が困難になる。 ・コミュニケーションツールを用意することで、理解が促される。 ・ジェスチャーで補足すると理解が促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な口頭での説明をしても、うなづきや返事などが見られず、理解できていると考えられない、又は、理解しているのかを判断ができない。 ・日常生活の中で、パターン化された特定の行為(座る、食べる等)のみ理解できる。
を奇声・奇声出	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯と場所を選ばず大声・奇声を出す。 	
行異動食	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられないもの(石や砂、玩具類、腐った食べ物、地面に落ちて明らかに汚れている食べ物、洗剤類等)を口に入れる。 ・物を口に入れて感触遊びをしたり、確認したりする行為がある。 ・服の袖を噛んだり、紐を口に入れることがある。 	
多動・行動停止	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多動 ・周囲と協調できず、絶えず動いてしまう。またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう。 ・常時走り回る、1箇所に留まることが難しい。 ・絶えず喋っている。 ・5~10分程度であれば指示に応じることができるが、その後すぐ同じ行動を繰り返してしまう。 ・バランス感覚がアンバランスのために転びやすい、怪我をしやすい、高いところから落ちやすい。 ○ 行動停止 ・本人の意思とは関係なく、次の行動に移ることが難しい。 	

	一部介助	全介助
不安定な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の物・人へ固執することで安定を図り、それが無くなったり、変更してしまうと不安定になってしまう。 ・パニック、突然泣き出すことがある。 ・突然の予定変更があると次の行動ができなくなる。また不安になり落ち着きがなくなってしまうたり、行動が停止する。 	
けり自ら傷つける行為	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の頭を叩いたり、床や壁に打ちつける。 ・自分をつねる。 ・傷口を触ったり、ほじったりして治らない。 ・自分で口に指を入れて嘔吐する。 ・衣服を破ることがある。 	
他人を傷つける行為	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る、押す等の行為がある。 ・物を壊したり、投げたりする行為がある。 ・暴言(バカ、死ぬ等)、相手を侮辱したり、からかったり、いじめたりする行為がある。 ・他人へ過剰な注意や干渉によるトラブルを起こす場合がある。 	
不適切な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・見知らぬ人に対し、過度に親しげな振る舞いをする。(例えば、抱きつく、膝の上に座るなど) ・断りもなく人の物を持ってきてしまう、盗む。 ・感情のコントロールに困難があり、些細な出来事がきっかけで頻繁にかんしゃくをおこす。 ・自慰行為がある。 ・過度に人や物の臭いを嗅ぐ行為がある。 ・不適切な場所で排便・放尿がある。 ・意思が上手く伝えられないために、友達を叩いてしまう、物を投げるなどの行為で自分の意思を表現する。 	
突発的な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・手にしたものを突発的に投げってしまう。 ・気になるものや事柄があると、大人から勝手に離れてしまい、迷子や行方不明になることがある。 ・気になることがある場合に、手を繋いでいても手を振り切り、気になる方に行ってしまう場合がある。 ・危険の認識が弱く、突発的に道路に飛び出したり、自分の身体能力を超えた高さから飛び降りる、熱いものなど危険なものに手を出してしまう。 	
反すう等	<ul style="list-style-type: none"> ○食に関する行動上の問題 ・過食、拒食(例:異常な量を食べる、環境の変化によって食べられなくなるなど)がある。 ・口に入れたものを飲み込めず、口に溜めたままにする。 ・際限なく水を飲み続ける。 ・極度な偏食(例:白米だけしか食べない等、特定の物だけしか食べない)あり、食事面で配慮している。 	
(昼夜逆転)	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠リズムが崩れやすく、昼夜逆転がある。 ・頻回に途中で起きる。夜泣き、夜驚への対応が必要である。 ・睡眠障害に関する診断や治療をしている。 	
かてん	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬対応までしていないが、てんかんの経過観察を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかんの診断がある。 ・発熱時に抗けいれん薬等で対応をしている。 ・薬の服用状況の確認を常に行なっている。
そううつ状態	<ul style="list-style-type: none"> ○うつに関連する行動 ・前後の脈絡なく急に泣いたり、笑ったりする。 ・日常の活動への興味や意欲が感じられない。 ・睡眠に課題がありリズムが崩れやすく、睡眠が安定しない、まとまった睡眠がとれない。 ・睡眠障害に関する診断や治療をしている。 ○そうに関連する行動 ・気分の高揚 ・多動・多弁 ・過度な興奮状態 ・怒りやすい 	
反復的行動	<ul style="list-style-type: none"> ・物や行為にこだわり特定の行為を反復する。(例:言葉やTVのフレーズを繰り返して話す、機械類をずっと見ている等) ・スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すように求めたり、戸の開閉を過度に気にし、きちんと閉まっていなないとパニックを起こすため配慮が必要。 ・自分の気になることを、何度も聞き返す。 ・くるくる回るものやキラキラするものに集中し、動けなくなることがある。 ・上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがあり、時と場所に応じて配慮が必要。 ・日常生活の中で、決まったルーティン(例:服を着る順番が決まっているなど)を行わないと次の行動にうつれない。 ・日常生活の中で、決まった道以外を通るとパニックになる。 	
対人面への不安緊張	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間保育園・事業所等へ行けなかったり、事業所の中に入れなかったり、家に引きこもっている状態。 ・全くもしくは短時間しか集団参加できず、個別に対応が必要。 ・新しい場所など慣れない場所に行くと動けなくなり、会話ができなくなる。 ・不安緊張が高まるとその場にいらなくなる、もしくはその場で動けなくなってしまう。 ・チック(目をパチパチさせたり、「オッ」など意図しないで声が出てしまうなど)など身体症状にあらわれている場合。 ・ファンタジーの世界に入ってしまう、やりとりが成立しない。 ・感覚過敏により日常生活への適応に困難があるため配慮が必要。(例:温度、食感、音が過剰に聞こえる、つま先立ちで歩く、光や色を過剰に感じる、皮膚感覚が過敏で同じ服しか着ることができないなど) 	
書き読み	<ul style="list-style-type: none"> ・一部理解はできるが、見守りや口頭で補足の説明が必要となる。 ・書くことはできないが、パソコン等の代用手段を使用すればできる場合。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字では理解できず、コミュニケーションツールを使用することで理解できる。 ・絵本や本に興味を示さない。 ・学習障害の診断がある。